

『あんしんサポートノート』学習会

知りたい 聞きたい グループホーム

— あたたかい 心と心のふれあい で 守ろう人権 —

2月27日(土)、昨年の10月、12月に引き続き、学齢期と学校卒業後1〜2年の会員を対象にした「あんしんサポートノート」学習会を開催しました。

3回目のテーマは「グループホーム」です。

いずれはグループホームに、と思っている方は多いのですが、費用や生活の様子、利用条件や利用開始までの手続き等、具体的なところがわからないという話、また、グループホームを運営する法人の方や世話人さんからは、利用のご本人の情報が少なく、困ることもあると伺います。

暮らしの場となるグループホーム(以下、GH表記)を利用する際、また、利用する前にも「あんしんサポートノート」は有効に利用することができま

す。そこで今回は、実際にGHを利用するご本人、その保護者、GH運営者がアドバイザーになり、そ



れぞれの立場からお話ししていただきました。

(社福) けやき苑のGHを利用して浅岡由木子さんには、生活の様子、例えば入浴の順番や掃除当番、余暇時間の過ごし方などをお聞きしました。GHを利用してから約4年、週末には自宅に帰るそうですが、まだ少し、寂しく

なることもあるそうです。

浅岡美和子さんは、由木子さんのGH利用にあたり、持病や服薬、性格的なことなど、不安に思っていたことを「サポートノート」を利用して職員や世話人さんに詳しく伝えることで、親自身も安心してGHに送り出せたとお話しされました。(会報175号にも詳しく寄稿していただきました。)

小矢部・砺波・南砺市に5カ所のGHを運営する(社福)手をつなぐとなみ野・理事長の尾崎順子さんには、利用にかかる費用、その他の生活費、金銭管理や利用条件の有無、緊急時の対応、地域住民との接点や利用者同士のトラブルなど、保護者が一番気になる点を説明していただきました。

各々からの具体的な内容については割愛しますが、浅岡さん、尾崎さんからは共に、「サポートノート」によって、お子さんの正しい情報が共有でき、支援やコミュニケーションがより良いものになるのご助言がありました。

また、ショートステイやGHの

体験利用を通して、新しい環境に慣れていくことも推奨されました。

「サポートノート」を書くことで、将来を考えることに繋がっていきます。

いつかお子さんが自立する時、誰かに託す時を想像しながら、たくさん情報を記録していただきたいと思

後日、全体の運営にご協力いた

だいた宮田真知子さん(富山市)から、県内にGHは整備されつつあるけれど、今後は重度の方も利用できるGHを作っていく必要がある、育成会で働きかけていかなければ、という感想をいただきました。

入所は難しい、在宅では将来が不安、だけどGHも足りない、重度の人はなかなか利用できない、同じ思いを抱く方は多いはず

です。様々な年代の仲間同士、今、地域にある資源、足りないもの、これから必要なもの、将来を思い描きながら、何が必要なのかという声を届ける活動、そのような話し合いができる場を、地域の育成会と協力し、創っていききたいと思